

✧ 血清蛋白

◆ 総蛋白

血清の大部分は水ですが、80種類以上の蛋白質が含まれており、そのうちアルブミンが約60%、それ以外のグロブリンと総称される蛋白質が約40%含まれています。この2つの蛋白質の総量を総蛋白といいます。蛋白質を合成する肝臓、排出する腎臓に障害が起こると総蛋白が増減します。

◆ アルブミン

肝臓障害の有無や栄養状態の程度を調べるための検査です。体内に存在する物質の運搬に関与しています。主に肝臓で作られ、その際にはアミノ酸をはじめとするいくつかの材料が必要になります。そのため栄養状態の悪い時には材料が不足しているため蛋白を合成できなくなり、アルブミンは低下します。値が低い場合は、栄養不足の可能性があります。特に高齢期では、低栄養状態の指標となります。また、必要以上に多量にアルブミンが排出されてしまうネフローゼ症候群も疑われます。高値の場合、大きな問題となることはほぼありません。

✧ 貧血

◆ 赤血球

赤血球とは、私たちの活動のもととなる酸素を肺から体全体の各組織へ運ぶ働きをしています。この赤血球の数を測定します。

◆ 血色素

血色素（ヘモグロビン）は、赤血球に含まれる蛋白の一種で、からだの中の組織に酸素を運ぶ重要な働きを担っています。赤血球自体が減るだけでなく、赤血球数が基準値であってもヘモグロビンの量が少ないと貧血になります。ヘモグロビンが不足すると少しでも酸素を体中へ送

ろうとするので、動悸・息切れなどの症状が起こります。また血色素ともいわれるように、ヘモグロビンは血の赤さのもととなっています。

◆ ヘマトクリット

一定の血液量に対する赤血球の割合（容積）をパーセントで表したものです。血液を遠心分離器にかけて、固形成分（血球）と上澄み（血しょう）に分け、固形成分がどのくらいの割合を占めるかを測定します。固形成分の99%は赤血球で占められているため、ヘマトクリットが低値の場合は貧血が疑われます。

◆ MCV・MCH・MCHC

赤血球数、ヘモグロビン、ヘマトクリットの数値から赤血球の大きさや色の濃さを調べる検査です。赤血球の大きさを表す MCV（平均赤血球容積）、赤血球に含まれる血色素量を表す MCH（平均赤血球ヘモグロビン量）、赤血球の大きさに対する血色素量の割合を表す MCHC（平均赤血球ヘモグロビン濃度）の3種類があります。

◆ 血清鉄

血液中の鉄分の過不足を調べる検査で、鉄欠乏性貧血などが分かります。鉄分はヘモグロビンの合成になくてはならない成分で、1日10~20mgの鉄分が食品から摂取されますが、そのうち1mgが体内に吸収され、同様に1mgが体外に排泄されています。体内の鉄分の約3分の2はヘモグロビン、残りは肝臓などに蓄えられています。